

令和5年度学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立羽咋高等学校

重点目標	具体的取り組み	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び今後の扱い(改善策等)
1 確かな学力と進路実現の保障 探究型学習の推進やICTの効果的な活用など、授業改善を進めることで学びの質を向上させ、生徒の思考力や主体性等を育み、進路実現へとつなげる。	① 授業改善を進め、生徒の思考力や表現力などの学力の向上を主体性をもって協働して学ぶ態度の育成を図る。	授業の内容は、生徒が主体的に活動する場面があり、思考力を高めることができる内容になっていると答えている生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	生徒による授業評価アンケートの結果 A	今後も、講義形式の授業だけでなく、ChromebookなどICT機器の活用を促し、生徒が主体的に活動できるよう授業改善を行う。
	② 習熟度別授業等の改善を図り、個に応じたきめこまかな指導を充実する。 ・習熟度別授業の検証 ・学習意欲につながる授業改善 ・教科研究会等の充実 ・学力層に応じた指導方法の確立	習熟度別授業が学力向上に効果的であると答えている生徒の割合【「とても効果的である(I)」・「ある程度効果的である(II)」】 A Iの割合が国数英3教科とも50%以上、またはI+IIの割合が3教科とも95%以上 B Iの割合が国数英のうち2教科で50%以上、またはI+IIの割合が3教科とも90%以上 C Iの割合が国数英のうち1教科で50%以上、またはI+IIの割合が3教科とも80%以上 D 上記のいずれにも該当しない	生徒による授業評価アンケートの結果 国語は2年・3年、数学は2・3年、英語は全学年で実施。 C	前年度の調査と比較し、数学・英語の数値が下がっているが、教学に関しては、習熟度別授業に対する指導がとても効果的であると肯定的に捉えている生徒の割合が過半数を超えて高くなっている。今後、さらに授業改善に励み、それぞれの学力層にあった効果的な指導について工夫する。
	③ 高い進路目標を達成させる。 ・授業・個人面談・進路学習等を通して進路意識の高揚を図る。 ・難関大学志望者に対する添削、補習指導など組織的指導を充実する。 ・習熟度別の補習や課題を工夫し、受験に対応した指導を行う。	ア: 難関10大学・国公立大学医学科合格者 3名以上 イ: 金沢大学合格者15名以上 ウ: 国公立大学合格者80名以上 以上ア～ウの項目のうち達成した項目が A 3項目 B 2項目 C 1項目 D なし	現時点では判定できない。	模擬試験結果の推移を見ると、着実に底上げが図られている様子が見える。教科や科目によって課題はあるものの、模擬試験結果を迅速に分析し、生徒への指導に反映させている。また、上位層には個別の添削指導も継続的に行っている。
	④ 学習習慣の確立 1・2年生全員の家庭学習時間が平日3時間以上、休日5時間以上となるように、個人面談・授業での予習指導・週課題で指導する。	1・2年生それぞれで、年間の平日家庭学習時間3時間以上達成者の割合が、 A 65%以上 B 50%以上 C 35%以上 D 35%未満	平日家庭学習時間3時間以上達成者の割合(4月～7月平均) 1年生 D 2年生 D	1・2年生とも学習時間の絶対量の不足が、学力向上を阻んでいる要因である。学習習慣の確立のためには生活習慣の立て直しが急務である。個々の実態を把握した上で、学年団を中心に粘り強く生活指導に取り組む。
学校関係者評価委員会の評価	学力育成には学習意欲と学習量の双方が必要である。そのため家庭学習時間の指標や目標の設定は、生徒の実態を踏まえて、生徒が学習意欲を持てるものであってほしい。			
評価結果を踏まえた今後の改善方針	キャリア学習を通して進路意識を高めて学習意欲の喚起を図るとともに、生徒の生活実態を把握して生活指導を行いながら、今一度学習方法の点検等を行う。			

重点目標	具体的取り組み	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び今後の扱い(改善策等)
2 基本的な生活習慣の確立と豊かな心の涵養 あいさつの励行から始まり、全ての教育活動を通して規範意識を高め、他者を思いやる心を持った、心身共に健康な生徒を育成する。	① 「あいさつの徹底」を通して規範意識を向上させ、自ら考え行動できる生徒を育成する。	学校評価アンケートで「①必ず挨拶する」「②だいたい挨拶をする」と回答する生徒の割合(①+②)が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	第1回学校評価アンケートの結果 C	前年度の調査と比較し、挨拶をする生徒は増加した。ただその中でも必ず挨拶をする生徒や場面が固定されており、それ以外の生徒への徹底はできていない。朝の登校指導時はほとんどの生徒が挨拶をすることができるが、日常時の校内での挨拶が徹底不足である。今後は挨拶をする場面についても集会等の機会でも指導していきたいと考えている。
	② 生徒間のネットトラブル等を未然に防止するための方策として、いじめに関する校内研修会やスマホ・ケータイ安全教室などを実施している。	学校評価アンケートにおいて、いじめ問題やネットトラブル等の予防・対応策を常に心がけ、実践している教員の割合が A 95%以上 B 80%以上 C 65%以上 D 65%未満	第1回学校評価アンケートの結果 B	ほとんどの教員がいじめ問題やネットトラブル等の予防・対応策について心がけて実践しているが、全学年・全クラスの情報共有を徹底し、生徒に指導をする機会を設けられるようにしていきたい。
	③ 文武両道の実践のため、学習時間の確保と部活動の時間・内容を充実させ、運動部は北信越大会以上、文化部は北陸大会以上を目指す。	北信越大会・北陸大会以上の大会に出場した部活動の数が A 12部以上 B 9部～11部 C 7部～8部 D 6部以下	4月以降8月末までの結果 C	全国総体には剣道部の女子団体、男女個人1名ずつが出場し、全国総文には新聞部が出場した。今後は北信越新人や全国選抜に向けてひとつでも多くの部活動が出場できるように努力していきたい。
	④ 基本的な生活習慣の確立を目指し、保健だよりや保健委員会の活動を通して、睡眠についての指導・啓発を行い、睡眠及び生活習慣の改善を図る。	保健・相談課のアンケートで十分な睡眠がとれていると答えた生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	第1回学校評価アンケートの結果 A	生徒は十分な睡眠がとれているようである。今後も同様のアンケートを実施し、改善の必要があれば検討する。

令和5年度学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立羽咋高等学校

	⑤ 全校生徒に呼びかけ、個人で行うボランティア活動を充実させる。ボランティアの機会を増やし校内外にも積極的に活動を広げる。	ボランティア活動を複数回実施した生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	第1回学校評価アンケートの結果 D	多くの生徒が1回はボランティア活動に取り組んでいる。天候の関係や行事等の都合で急遽中止となることもあったが、今後ボランティア活動の参加を促すことで、複数回実施する生徒が増えてくることが予測される。
	⑥ 『図書だより』、『図書館報』および図書委員会の活動を通して、新着図書の紹介や読書の楽しさを啓発し、読書習慣を身につけさせる。	生徒一人当たりの貸出数が A 4冊以上 B 3冊 C 2冊 D 2冊未満	4月以降8月末までの結果 C	前年度の調査と比較し、平均は大差ないが、授業での利用回数は増えている。今後受験対策としての小論文指導や、探究活動の発表などで図書館資料を利用する生徒、職員が増えるものと思われる。
	⑦ 体育の授業における体づくり運動や年間を通しての補強運動、チーム練習を主体的に取り組みせ、体力の向上を図る。	スポーツテストにおける持久走の結果で、全学年男女別の6部門中、全国平均を上回った部門が A 4部門以上 B 2部門以上 C 1部門 D 0部門	現時点では全国平均が未発表のため判定できない。	前回実施の全国平均と比較しても全部門で全国平均を下回る結果となっていたため、今年度の全国平均との比較も厳しい結果が予測される。
学校関係者評価委員会の評価	読書習慣をつけることがねらいであるなら、図書の貸出数よりも読んだ本の冊数を調査し、分析することの方が大切ではないか。			
評価結果を踏まえた今後の改善方針	読書習慣をつけるための方策として、どのような取組が考えられるか今後協議したうえで、次年度に向けて適切な評価指標を検討する。			

重点目標	具体的取り組み	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び今後の扱い(改善策等)
3 地域から信頼される学校づくり 「未来塾」やボランティア活動を通して地域とつながり、医療や教育の分野をはじめ地域に貢献できる人材を育成し、地域から信頼される学校づくりに努める。	① 授業公開やオープンスクールを実施することで、中学生・保護者・地域に本校の特色を理解してもらえよう努める。	体験入学、学校公開の参加者が、 A 400人以上 B 350人以上 C 300人以上 D 300人未満	4月以降8月末までの結果 C	地域の中学生数の減少もあるが、募集時の取り組みがチラシの配付、HPでの広告のみであったため、中学生等の行動を引き出すに至らなかった。今後は、在校生の声を中学生に伝えるなど、工夫をする必要がある。11月の学校公開の案内を中学校、保護者、地域の人に届け、行動を引き出す工夫をした発信を行う。
	② 学校説明会、地区別高校説明会、未来塾のPR等の実施に関して、内容・方法に工夫改善を加え、今まで以上に、地域住民、中学生や保護者に本校を理解してもらえよう努める。	一般志願倍率が A 1.1倍以上 B 1.05倍以上 C 1.0倍以上 D 1.0倍未満	現時点では判定できない。	中学校を訪れての学校説明会は随時行っている。9月末から10月にかけては保護者向けの地区別説明会を行う予定である。今後も継続的に本校の魅力をアピールする。
	③ 保護者や外部に向けて毎月の行事予定表や実施した行事・部活動報告など、最新の情報をこまめに迅速に提供することに努め、本校の教育活動への関心・理解を深める。	保護者アンケートにおいて本校のホームページが「①役立つ」「②やや役立つ」と答えた保護者の割合(①+②の合計)が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	第1回学校評価アンケートの結果 B	ホームページの更新は迅速に行っている。ホームページに対する関心度の高さは1年→3年→2年の順であった。後期も新入大会などの部活動の報告をはじめとして、学校や各学年の行事を機を逃さず発信し、保護者に関心を持ってもらえるホームページ作りに努めたい。
学校関係者評価委員会の評価	羽咋高校の魅力は教育活動だけではなく、地域の環境や施設、交通アクセスの良さなども含まれるはずで、そのことをもっとアピールすべきである。			
評価結果を踏まえた今後の改善方針	本校の魅力や特色について、今後地区別説明会等を通して様々な側面をアピールする。			

重点目標	具体的取り組み	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び今後の扱い(改善策等)
4 教職員の多忙化改善 教員どうしの協働する力を大切にし、業務の効率化を図ることで時間外勤務の縮減に努め、より良い教育活動の実践を目指す。	① 平日は19:30までに退校するために、1日の業務計画を立てる。部活動は年間計画、月別計画、実施表を作成して、適切な休養日を確保するよう努める。業務内容の精選を図り、継続的に業務の効率化に努める。	教員の時間外勤務時間調査において、月平均の時間外勤務時間が A 35時間以下 B 35～40時間 C 40～45時間 D 45時間超	4～7月平均 D	いずれの月においても時間外勤務時間は、昨年度よりも縮減している。4～7月の平均でも昨年度より1時間短くなっているものの、40時間超が続いており、一層の業務効率化が求められる。業務内容の精選を継続的に検討するとともに、教育の質を落とすことのないよう留意する。
	学校関係者評価委員会の評価	業務の優先順位をつけて、思い切った業務の削減が必要ではないか。特に部活動指導が大きな負担になっているのではないか。		
評価結果を踏まえた今後の改善方針	部活動については年間活動計画のもと適切に休養日を設定しているが、実際の活動時間実績を踏まえて教員の負担軽減と多忙感の解消に努める。			